

平成28年度 第1回 苫小牧市文化財保護審議会 会議概要

日 時：平成29年3月27日(月) 13:30 ～ 14:25
会 場：苫小牧市第2庁舎 1階会議室

出席委員 蓑島会長、蓼沼副会長、一谷委員、栗井委員、齋藤委員、鈴木委員、丹波委員、
日浦委員、坂田委員 計9名
教育委員会（事務局） 教育部 瀬能次長
生涯学習課 鍛冶課長、飯島主査、今井主事

-
- ・ 開会
 - ・ 挨拶 蓑島会長
教育部 瀬能次長
 - ・ 議事
 - (1) 平成28年度文化財保護事業の報告
(事務局から報告)
 - (2) 平成29年度文化財保護事業について
(事務局から説明)

<主な質疑>

《静川遺跡の保護木柵交換等について》

委 員：委託しているのに「苫小牧縄文会の事業に協力する」という表現はいかななものかと思う。

事務員：もともとは市で行っていたものだが、縄文会が会の事業として木柵のくい打ちを行いたいとのことで、市で杭などの消耗品を購入していることからこのような表現としました。

委 員：予算で静川遺跡の委託料6万5,000円とあるが、これは縄文会への委託料ではないのか。

事務員：これは縄文会への委託料ではありません。遺構上の樹木の伐採と草刈りを業者に委託するものです。

委 員：指定文化財の保存は市に責任があると思うので、市民団体に委託するという形をとった方が良いのではないのでしょうか。

会 長：こちらについて、私の記憶しているところでは、縄文会の皆さんが自分たちの活動として、是非やっていきたいという要望があって、行っているので、なかなか表現が難しい部分があるのかと思います。文化財の保護について市民団体と一緒にっていくことは大変重要なことなので、このような協力的な団体を巻き込んでいくことは、良いことだと思いますが、手続きのところ

で疑念を招くところがあるかと思います。責任の所在をはっきりさせる必要はあるとは思いますが。

委員：責任の所在というところだと思いますが、杭を打ち、もし文化財に損害などを与えた場合どうなるのか、というようなところの責任の所在を、はっきりとさせないといけないと思います。

会長：そのあたり、例えば同じような事例が他市でもあるかと思いますが、調査していただいて適切な手続きをしていただければと思います。

《文化財発見ツアー》

委員：31名参加ということだが、募集定員は何名だったのか。また、過去の応募状況はどうなっているのか。

事務員：40名の募集でした。過去の応募状況は、27年度は37名参加、26年度は40名参加、25年度は22名参加、24年度は7名の参加でありました。

委員：最近は増加傾向だということですね。また、アンケートで「やや不満」ということでしたが、何が不満であったか。また、その年代も教えて欲しい。

事務員：残念ながら満足度以外の項目は、無記入でした。

委員：ツアーのコースによって参加人数の変動はありますか。

事務員：事業開始当初は、基本的に指定文化財を回っていましたが、ここ数年は、未指定文化財や市外の文化財をツアーの行程に含んでおります。これによって参加数が増加してきたと考えております。

《考古学カフェ 2016 について》

委員：考古学カフェを初開催したということだが、世界遺産登録に向けたものなのかと思うが開催の目的を教えて欲しい。また、苫小牧市の展示スペースの大きさと、このイベントの際に使える予算を確保しているのか教えて欲しい。加えて、29年度の変更点、今後このイベントを拡充する予定などあれば教えていただきたい。

事務員：目的については、委員のおっしゃるとおり「北海道・北東北の縄文遺跡群」の世界遺産登録推進のための機運醸成が目的となっております。展示スペースは展示パネル縦1枚分とその前の机となっております。予算につきましては、連絡会へ加入金を支払っておりますので、イベント時連絡会から消耗品等の支給があるほか、文化財保存経費需用費の消耗品費から、説明用のチラシなどを作成する費用を捻出しております。29年度の内容については、28年度と同様と伺っておりますが、詳しい内容については来週企画会議がありまして、その中で提示があるかと思いますが、また、このイベントの発展について、現在のところは未定と伺っております。

委員：説明など美術博物館の学芸員が中心になって行っているのかと思いますが、市民の方でも熱心な方がいらっしゃると思いますので、そのような方が説明員として参加できるように、企画段階から提案してはどうか。また、パネル

の説明文章の字が小さいと思います。

事務員：ご意見とご指摘いただいた点について、連絡会の企画会議で提案させていただきたいと思います。

委員：苫小牧市の展示スペースには人員は配置していたのか。

事務員：私と美術博物館の学芸員の2人が交代で立っていました。

委員：展示スペースの前で説明した場合、他の自治体と隣り合っていることもあり、展示を見たい人が入り込むスペースがないように見えるが、実際はどうでしたか。

事務員：他の自治体も1、2名職員が張り付いていましたし、体験コーナーや企画コーナーなどもあったので、スペース的に窮屈な部分はありませんでした。

委員：多くの自治体が一室に会しているイベントなので、難しい部分はあるかとは思いますが、他の自治体との間にスペースを設けるなどしてはどうか。

事務員：連絡会の企画会議で提案させていただきたいと思います。

《文化財紹介パンフレットについて》

会長：これはとても良い企画だと思います。現行「苫小牧の文化財」は、廃盤とせずそのまま配布して、別に入門編ということで新しいパンフレットを作成するというのでしょうか。

事務員：はい、そのとおりです。

会長：文化財といえば、指定されたものだけという考えを持たれ易いが、未指定だからといって大切ではない、ということではないので、そのあたり未指定文化財の掲載についても考慮していただきたい。

委員：パンフレットを作成する際、彫刻などの石碑も市内にたくさんあるので、併せて掲載していただきたい。

事務員：彫刻や石碑についても重要な文化財になるものがあると思うので、全てを掲載することはできないと思うが、未指定文化財と同様に掲載について検討していきたい。

会長：議事1.2については、他にありませんでしょうか。なければ、議事3「その他」については特にありませんので、全体を通して何かありますでしょうか。

委員：静川遺跡の保護木柵交換等について感想になりますが、一市民から見て私も団体に協力するという表現には違和感があります。

委員：静川遺跡は市が管理している文化財なので、市が協力するという表現はおかしいと思います。市の事業に縄文会が協力しているのではないかと。

事務員：そのあたり含めて、表現の仕方考えていきたいと思っています。鈴木委員がおっしゃるとおり、静川遺跡の管理責任は市にあります。市内にあるさまざまな文化財を市民団体と一緒に保存していくということは、大切なことと考えております。静川遺跡の杭打ちについては、現状としてこのような形で行っていますが、委員の皆さんからご指摘いただきましたので、他市等の状況を調

べまして、誤解のないようにしていきたいと思います。

会 長：委員の皆さんから指摘または、意見があった点について、事務局では対応していただきたいと思います。その他、何も無ければ審議会と閉じたいと思います。本日はお疲れ様でした。

- ・ 閉会